

鈴木 滋

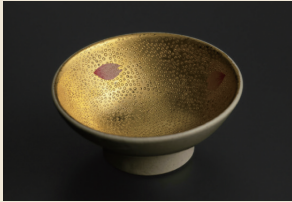
SUZUKI SHIGERU

1964年生まれ
1984年 塗師・須藤八十八氏に師事
1994年 塗師として独立
2005年 津軽塗伝統工芸士認定
2015年 津軽塗秀作展 最優秀賞受賞

父親も津軽塗職人でしたので、小さい頃からずっと津軽塗を身近に感じていました。そのうち自分でも「いろいろなものを作ってみたい」「いろいろなものに塗ってみたい」と思うようになり、この世界に入りました。津軽塗伝統の技術を駆使しながら、遊び心も取り入れてオリジナルの作品を作成しています。2016年には、オリジナルの箸の特許登録することが出来ました。もっと漆の良さをわかってもらい、沢山のの人に使ってもらえる時代が来るように、魅力あるものを作っていきたく思います。



得意・好きな技法 変り塗(オリジナル)



鈴木 孝

SUZUKI TAKASHI

1951年生まれ
1971年 鈴木漆器製作所に入所
1976年 彩工房設立
2001年 津軽塗伝統工芸士認定
2002年 全国漆器展 NHK会長賞受賞
2008年 全国漆器展 NHK会長賞受賞

父親や叔父が津軽塗職人で、自然に跡を継ぎたいと思うようになりました。私は伝統を継承しつつ、オリジナリティのある作品作りを目指しています。昔の津軽塗も今以上に様々な色や塗り方があり、先輩達の強い創作意欲を感じます。そして、オリジナリティを追求した私の作品がどこか古津軽塗に似ていると言われることにも不思議な縁を感じています。48工程、約3ヶ月も手間をかけて作られる津軽塗をもっと多くの人に知ってもらいたい、そのためにこれからも頑張ります。



得意・好きな技法 唐塗、変り塗



黒滝 茂美

KUROTAKI SHIGEMI

1958年生まれ
1981年 津軽塗の会社に入社
1991年 全国漆器展 林野庁長官賞受賞
1994年 津軽塗伝統工芸士認定
日本クラフト展入選
1996年 工房黒瀧設立
1997年 金澤工芸大賞入選
1998年 日本伝統工芸士作品展入選

知人の紹介で津軽塗の会社に入社しました。今は職人として『誰も真似できないもの』を作るという目標を持ち、伝統の塗りはもちろん、独自の変わり塗にも積極的に取り組んでいます。また、お椀やお盆などの定番商品だけでなく、タンスや帯などに津軽塗を施したオリジナル商品の開発に力を入れています。これからもさまざまなコラボレーションを通じて津軽塗の可能性に挑戦していきます。



得意・好きな技法 七々子塗、紋紗塗



木村 正人

KIMURA MASATO

1965年生まれ
1986年 青森県工業試験場漆工科研修生終了
1989年 石川県立輪島漆芸研修所卒業
1999年 津軽塗伝統工芸士認定
2005年 青森県技能奨励賞受賞
2016年 東日本伝統工芸展 入賞
2017年 東京ドームテーブルウェアコンテスト入賞

津軽塗職人として5代目となる私は、物心がついた頃からずっと職人としての父親の姿を見ながら、津軽塗に囲まれて育ってきました。元々ものづくりが好きな私も自然に職人の道に進んでいました。塗物に対する興味はどんどん膨らみ、師匠である父親の元で津軽塗の修業をしながらも、工業試験場や輪島漆芸研修所で様々な塗りや漆の知識、技術を身に着けました。津軽塗の多彩なバリエーションに自分なりの新たな技術を組み合わせながら、お客様の色々な要望に精一杯応え、喜んでいただけるようなものづくりをこれからも続けていきたいと思っています。



得意・好きな技法 紋紗塗



工藤 健蔵

KUDO KENZO

1956年生まれ
1971年 成田津軽塗製作所に入社
1994年 津軽塗伝統工芸士認定
2012年 青森県卓越技能者表彰受賞
2015年 日本漆工優秀漆工技術者表彰受賞

津軽塗の木地師をしていた兄の勧めで津軽塗の道に進みました。津軽塗は本当に手間のかかる漆器ですが、その分やりがいがあると感じています。特に錦塗は津軽塗の中で最も華やかで絢爛豪華な塗りといわれていますが、工程も多く制作に時間も必要です。現在では制作する職人も少なく貴重になりつつある錦塗を後世に残す意味でも、私が錦塗を作るときは精いっぱい心を込めて制作しています。ぜひ多くのお客様に津軽塗を手にとっていただき、私たち職人の仕事ぶりをご覧いただけることを願っています。



得意・好きな技法 錦塗、七々子塗



熊谷 慶孝

KUMATANI YOSHITAKA

1947年生まれ
1966年 漆芸熊谷に入社
1993年 津軽塗伝統工芸士認定
青森県美術展 中央選抜賞三回
東北現代工芸展受賞
日本現代工芸展入選

明治40年創業の津軽塗を生業とする家に生まれ、当然のように父の跡をついで私が3代目となりました。大量生産の工業製品と異なり、津軽塗は一つ一つ手作りのため、手間がかかりどうしても高価になります。それでも製品の出来をご確認いただき、その価値を認めていただければ、価格にも納得いただけると信じております。ただ、消費者の生活スタイルは急激に変化しているので、私たち津軽塗製作者にも変化が求められていると感じています。伝統を守りつつも、新しい津軽塗へ変わっていかねばならないと考えています。



得意・好きな技法 七々子塗、蒔絵

